No.7311-71405A

リモコンエンジンスターター

TE-W1800

取扱説明書

もくじ

はじめに

このたびは、リモコンエンジンスターターTE-W1800をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。

この取扱説明書は、リモコンエンジンスターターTE-W1800(以下本製品という)をご使用頂くためのガイドブックです。
この製品は、一定の安全条件を満たしている場合に、遠隔操作により車のエンジンをスタート(ドアをロック／アンロック)させる装置です。
この製品を正しく安全にご使用頂くために、この取扱説明書をよくお読みになり、内容を理解された上で実際にご使用ください。この取扱説明書はお読みになった後も、車検証入れなどすぐに取出せる場所に保管し、ご使用中にわからないことや具合の悪いことが起きたとき、お役立てください。
また、本製品を譲られる場合は、次に使用される方に本書も併せてお渡しください。
なお、誤った取り付け、使用による事故、破損などの責任は一切負いかねます。
※本製品使用中に、万一取付車に盗難等の被害が発生しても、当社補償は一切ありません。

注意事項の定義

この取扱説明書の注意事項は、そのレベル、内容ごとにマークを設けています。
各々の定義(意味)を充分に理解された上で、お取扱いください。

危険	重大事故が起こる状況のもの
警告	人体に対し、危険が生じる恐れのあるもの
注意	物品を破損、故障させる恐れのあるもの
禁止	法律に違反する恐れのあるもの
参考	取り付け、取り扱いにおいて知っていると有益な情報

TE-W1800の特長

■多彩なアンサーバック機能
エンジン情報・ドアロック操作(※)・アイドリング残時間・車内温度・車両バッテリー電圧をリモコンの液晶画面にデジタル表示します。
※ドアロック操作のアンサーバックは本製品のリモコンで行ったドアロックおよびドアアンロックの操作のみが反映されます。純正キーなどでドアロック/アンロックした場合のドアロック状態は反映されません。なお、ドアロックの操作には別途オプションが必要です。

■ドアロック機能(14ページ、16ページ参照)
本製品のリモコンで遠距離からでもドアロック(アンロック)が可能なため非常に便利です。また、別売の「ハザードフラッシュリレー2」(TE418)を組み合わせる事によりハザード連動も可能です。
※ドアロック機能は別途オプションが必要です。また、車種によってはご使用いただくことができない場合があります。詳しくは店頭の車種別ハーネス適合表をご覧ください。

■快適な通信性能
先進技術のRSC(Reed Solomon Code)デジタル補正により、通信距離の向上と建物の密集した場所での安定した通信を実現しました。

■誤操作防止機能(23ページ参照)
カバンやポケットの中での思わぬ誤操作を防ぐため、リモコンにボタン操作ロック機能を装備しました。
(1 KEYモード時のみ)

■自動停止機能(19ページ参照)
本製品によるエンジン始動後、一定時間経過すると自動的にエンジンが停止します。

■リトライ機能
一度の始動動作でエンジンがかからない場合でも、自動的にセルモーターの回転時間を延長しながら合計3回まで始動を試みますので厳冬期でも安心です(最長セルモーター回転時間=約4.0秒)。

■アイドリング延長機能(11ページ参照)
本製品によるエンジン始動中に再度スタート操作を行うことにより、アイドリング残時間が始動時と同じ時間に戻ります。

■スリープモード
バッテリーの負担を軽減させるために、14日以上エンジンの始動を行わなかった場合にエンジンスターターの機能を自動的に停止します。

■スペアリモコン対応<別売>(36ページ参照)
標準装備のリモコンを紛失した場合、別売の補修用スペアリモコンが使用可能です。
※増設はできません。

■純正イモビライザー装着車対応
純正イモビライザー装着車でもエンジンスターターがお使いいただけるよう、別売のアダプターを用意しました。
※車種により適合の可・不可があります。詳しくは店頭の車種別ハーネス適合表をご覧ください。

■電波法適合品
本製品の特定小電力無線は日本国内の電波法に適合していますので安心してお使い頂くことができます。

■車検対応品
本製品は車検対応品です。

■寒冷地推奨品
本製品のメインユニットは－20℃でも動作可能なため、厳冬期でも安定した動作を実現します。

■安心の日本製で、信頼の3年保証
本製品は日本製。徹底した品質管理により、信頼の3年保証(リモコンは1年)を実現しました。

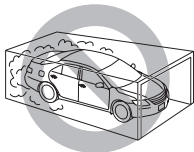
安全にお使いいただくために

本製品を安全にお使いいただき、お客様や周りの方、物への被害を防ぐため、必ずお読みください。

警告事項

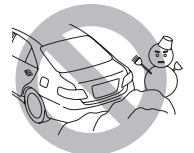
警告

換気の良くない場所(ガレージ·立体駐車場·地下駐車場)で使用しないでください。
排気ガスが充満して大変危険です。

警告

車にボディカバーを掛けたままで使用しないでください。
火災の恐れがあります。

警告

マフラーが雪で埋もれた状態で使用しないでください。排気ガスが車内に充満する恐れがあります。また配線の損傷による車両火災の原因にもなりますので大変危険です。

警告

車の近くに燃えやすいものがないことを確認してから、ご使用ください。
火災の恐れがあります。

警告

リモコンは、お子様の手が届かない場所に保管してください。
誤操作による事故の恐れがあります。

警告

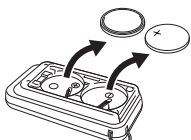
お子様やペットなどを車内に残したままで、使用しないでください。
事故の恐れがあります。

警告

リモコンは、直射日光の当たる場所·車内·暖房器具の近く等、高温になる場所で、保管または使用しないでください。
リモコンが高温になり、やけどや故障の原因となります。特に、車のダッシュボード上は非常に高温となりますので、絶対に放置しないでください。

警告

車を他人に預ける時(整備に出す等)は、リモコンの電池を抜いておいてください。
誤操作による事故の恐れがあります。

警告

運転中に本製品の操作をしないでください。
事故の原因になります。

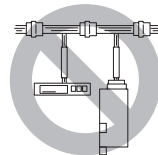
警告

リモコンの電池は、お子様の手の届く場所に保管しないでください。誤飲の恐れがあります。

注意事項

注意

ターボタイマー(スターター)や盗難警報機類との併用取り付けはしないでください。
誤作動の原因となります。

注意

リモコンを床に落としたり硬いものにぶつけたりしないでください。
故障の原因となり、リモコンでの操作ができなくなる場合があります。

注意

リモコンは直接水のかかる場所や湿気の多い場所で、保管または使用しないでください。
故障の原因となり、リモコンでの操作ができなくなる場合があります。

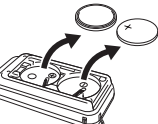
注意

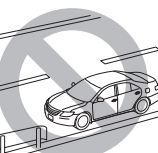
製品が汚れた場合は、薄めた中性洗剤をしみ込ませた布をよく絞ってから拭き、乾いた布でもう一度拭いてください。
ベンジン、シンナー等の化学薬品は、絶対に使用しないでください。変形·変色や故障の原因となります。

注意

長時間使用しないときは、リモコンの電池を抜いておいてください。
故障の原因となります。

禁止事項

禁止

エンジンスターター機能は安全な場所でご使用ください。道路で使用すると違法となりますので、絶対に使用しないでください。

禁止

この製品は、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けております。分解したり、改造することは、法律で禁じられておりますので、絶対にしないでください。

禁止

製品に貼付の技術適合証明ラベルをはがしたり、ラベルのないものを使用することは、法律で禁じられておりますので、絶対にしないでください。

禁止

この製品は、日本国内の電波法に適合しています。国外での使用は、違法となる場合がありますので、おやめください。

禁止

一部地域では、暖機運転以外の目的で使用すると条例違反となります。

CAUTION

This Product is for use only in Japan.

危険事項

危険

マニュアル車へ取り付けることは、絶対にしないでください。マニュアル車は、冬季にパーキングブレーキの凍結を防ぐため、パーキングブレーキをかけずにギアを「ロー」もしくは「バック」に入れ駐車する場合があります。また、坂道などに駐車する際にもギアを「ロー」もしくは「バック」に入れます。その状態でエンジンスターターを使用すると、無人走行の原因となり、思わぬ大事故につながります。

危険

12V車専用です。トラックなどの24V車には、取り付けできません。

危険

外車・特種用途自動車には、取り付けできません。

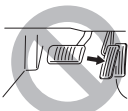
危険

キーフリーシステム・スマートキーシステム・純正セキュリティアラーム装着車には、取り付けできません(適合車種除く)。

危険

平成元年以前の車でシフトロックが装着されていない車(フットブレーキを踏まずにセレクトレバーが「P」から移動できる車)には、取り付けできません。

危険

エンジン始動時に下記のような場合には、取り付けできません。

アクセル操作が必要な車　チョークレバーを引く車　年間を通じ、始動操作をして2秒程度でエンジンのかからない車

危険

雨滴感応ワイパー装着車には、取り付けできません。取り付けすると車両故障の原因となります。

参考事項

参考

電波到達距離は、周囲の環境や使用状況により異なります。車と送信場所との間に建造物等がある場合には、電波到達距離が短くなります。

参考

まれに、本製品と純正キーレスエントリーの電波が干渉し、キーレスエントリーの作動距離が極端に短くなる場合があります。その場合は、33ページ「リモコンIDの再登録」を行って、周波数チャンネルの変更をお試しください。

参考

リモコンをTV、パソコンなどの近くで使用するとノイズの影響により通信距離が短くなる場合があります。その場合はノイズ発生源から離してお使いください。

参考

オートチルトおよびマイコンプリセットステアリング装着車は、本製品でエンジン始動した状態でイグニッションキーを差込んでもオートチルトおよびマイコンプリセットが作動しなくなりますので、キーでエンジンを再始動してください。

参考

ほとんどの純正キーレスエントリー装着車は、車両の仕様上、エンジン始動中に純正キーレスエントリーが作動しないようになっています。このような車両の場合、エンジンスターター機能でのエンジン始動中は、本製品のドアロック／アンロック機能を使用するか、キーでドアを開ける必要がありますのでご了承ください。

参考

リモコンを低温になる場所に置いておくと、一時的に電池電圧が低下して液晶やバックライトの表示が薄くなることがありますが、常温になれば元に戻ります。

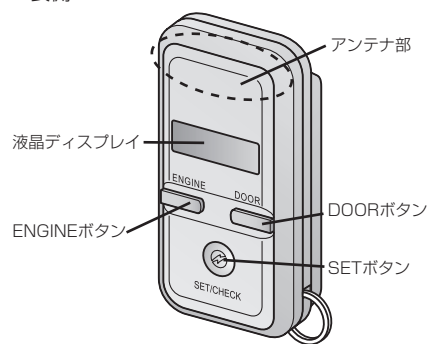
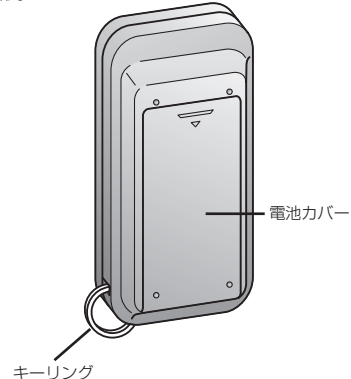
参考

本製品の近くで大出力の無線機等を使用すると、無線機の発する電磁波により、誤作動や未作動の原因となる場合があります。

参考

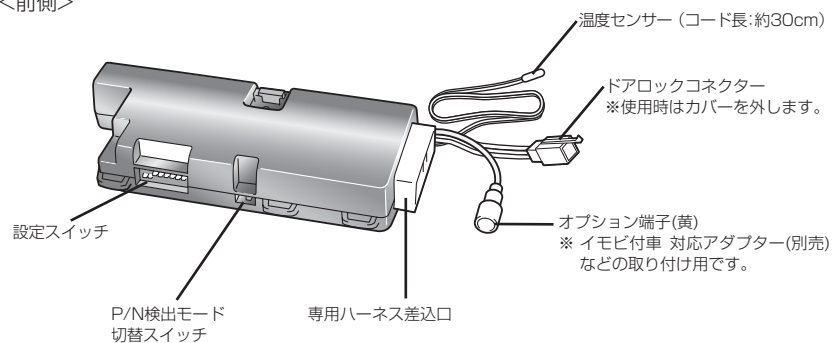
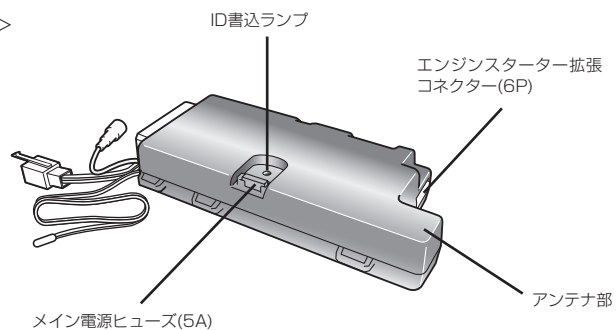
オートライトコントロール装着車は、ライトスイッチがAUTOの位置で本製品を作動させると、オートライト機能が正常に作動しない場合やエンジンがかからない場合があります。ライトスイッチは必ずOFFの位置にしてご使用ください。

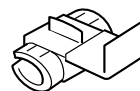
付属品の確認

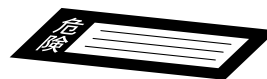
●リモコン　1個

参考 **アンテナ部に触れた状態で操作すると著しく通信距離を縮めますのでご注意ください。**

メモ　ドアロック機能を利用するには別途オプションが必要です。

メモ　純正キー(純正キーレス)などでドアロック／アンロックした場合、本製品のリモコンの液晶ディスプレイにはドアのロック状態は反映されません。

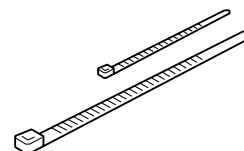
●**本体(メインユニット)**　　　**1個**

●**その他の付属品**

・ワンタッチコネクター　　1個

フットブレーキの配線等に使用します。

・危険シール　　1枚

エンジンルーム内の目立つ場所に貼ります。

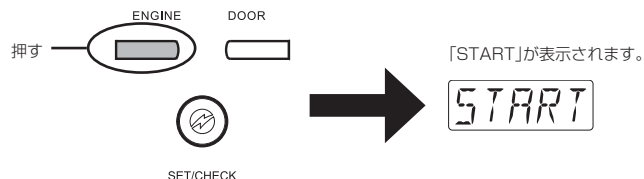
・結束バンド(大)　　1本
・結束バンド(小)　　2本

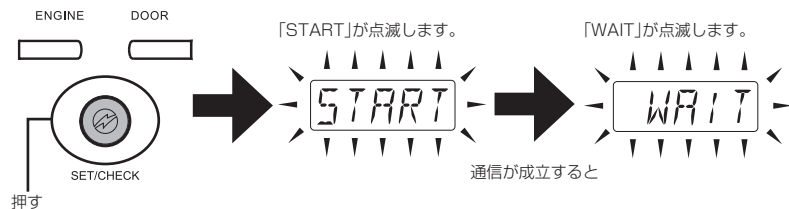
コードを束ねたり、本体の固定に使用します。

安全にお使いいただくために
付属品の確認
使いかた
設定のしかた
取り付け時の設定
お手入れ
故障かな?と思ったら

使いかた

エンジンをかける

メモ すでにリモコンを使ってエンジンがかかっているときにこの操作をすると、アイドリングの残り時間がリセットされ、再びカウントダウンを開始します。(アイドリング延長機能)
環境に配慮し、不必要なアイドリングの延長はおやめください。

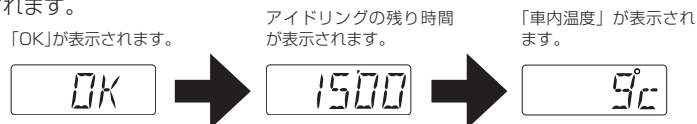
1 すべてのドアを閉め、[ENGINE]ボタンを押します。

【「1 KEY」モードの場合】(22ページ参照)
[ENGINE] ボタンを2秒以上押し続けると、エンジンを停止する操作になります。(13ページ参照)

2 液晶ディスプレイに「START」が表示されている間に、[SET]ボタンを押します。

【「1 KEY」モードの場合】(22ページ参照)
この手順は不要です。

メモ 「WAIT」の表示は、本体との通信が成立し、車両がエンジンをかける準備をしていることを表しています。

3 液晶の表示を確認します。

本体との通信が成功してエンジンがかかると、アイドリングの残り時間と車内温度が表示されます。

「OK」が表示されます。　アイドリングの残り時間が表示されます。　「車内温度」が表示されます。

参考 **[SET] ボタンを押してから30秒以上たっても液晶に「OK」と表示されないときは、エンジンがかかっていない可能性があります。もう一度操作し直してください。**

参考 **純正キーレスエントリー装着車の場合、本製品によるアイドリング中はキーレスエントリーの操作が受け付けられないことがあります。その場合は一旦エンジンを停止してからキーレスエントリーを操作するか、本製品のドアロック機能を利用してください。(14ページ「ドアをロックする」参照)**

メモ 車内温度は付属の温度センサー先端部の温度です。
車両純正の温度計の表示などとは一致しません。

メモ 本製品でエンジンをかけている場合は、本体から「ピッピッピッ…」(1秒間隔)と音が鳴ります。

メモ リモコンにエラーが表示されるときは、39ページ「エラー表示一覧」を参照して対処してください。

Err99

4 車に乗り込み、車のイグニッションをONにします。

これで走行できるようになりました。

参考 **一部のプッシュスタート車は乗り逃げ防止のため、アイドリング中にドアを開けるとエンジンが停止します。**

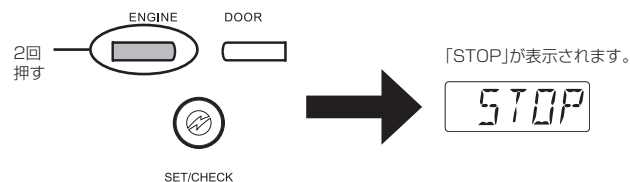
参考 **一部の車種では、一旦エンジンを切ってから車両本来の方法でエンジンをかけ直す必要があります。**

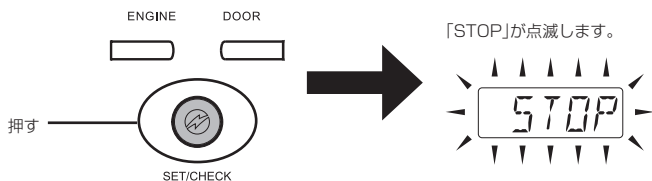
次のような場合に、正常に通信できないことがあります。

・リモコンからのデータ送信時に、周囲で同じ周波数帯の電波が飛んでいる。
→時間をおいてもう一度操作してください。
・リモコンからのデータ送信時に、本体もリモコンへデータ送信している。
→時間をおいてもう一度操作してください。
・車から離れていて電波が届かない。
→車に近付いてもう一度操作してください。

エンジンを止める

参考 この操作では、本製品でエンジンをかけた場合にだけエンジンを止められます。車両本来の方法（キーやイグニッションスイッチ）でエンジンをかけているときは、この操作でエンジンを止められません。

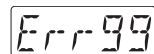
1 [ENGINE]ボタンを2回押します。

【「1 KEY」モードの場合】(22ページ参照)
[ENGINE]キーを2秒以上、押し続けてください。

2 液晶ディスプレイに「STOP」が表示されている間に[SET]ボタンを押します。

【「1 KEY」モードの場合】(22ページ参照)
この手順は不要です。

3 液晶の表示を確認します。

本体との通信が成功してエンジンが停止すると、次のように表示されます。

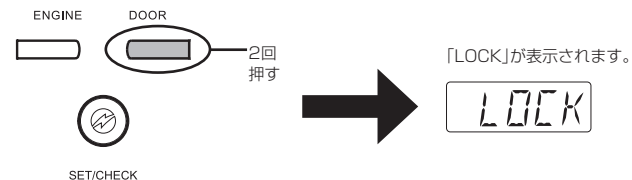
「OK」が表示されます。

メモ リモコンにエラーが表示されるときは、39ページ「エラー表示一覧」を参照して対処してください。

ドアをロックする

参考 本機能は、ドアロックコード(別売)やドアロック対応のアダプター(別売)が配線済みのドアロック適合車種で使用できます。

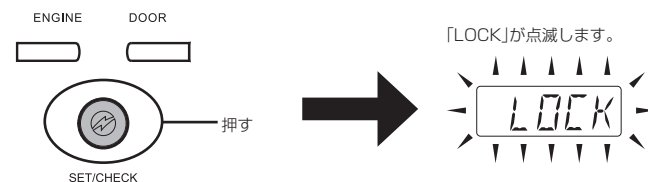
参考 車両本来の方法（キーやイグニッションスイッチ）でエンジンをかけているときは、本製品のリモコンでドアロックはできません。

1 車両のドアがすべて閉じられていることを確認します。

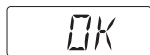
2 [DOOR]ボタンを2回押します。

【「1 KEY」モードの場合】(22ページ参照)
[DOOR]ボタンを2秒以上、押し続けてください。

3 液晶ディスプレイに「LOCK」が表示されている間に、[SET]ボタンを押します。

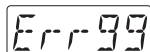
【「1 KEY」モードの場合】(22ページ参照)
この手順は不要です。

次のページへ

4 液晶の表示を確認します。

本体との通信が成功してドアがロックされると、次のように表示されます。

「OK」が表示されます。

5 すべてのドアが正しくロックされているか、確認します。

メモ　リモコンにエラーが表示されるときは、39ページ「エラー表示一覧」を参照して対処してください。

Err-99

純正キーレスよりレスポンスが悪い？

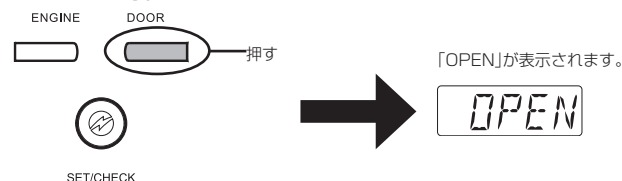
本製品は、「特定小電力無線」を使用しているため、遠距離からでもドアロック操作を行うことができます。
「特定小電力無線」は電波の送信時に周囲の電波状況を確認することが電波法で義務づけられています。そのため、純正のキーレスより操作後の反応が遅く感じる場合があります。

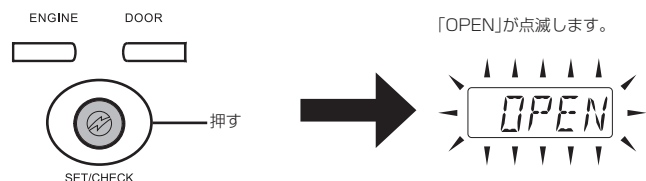
ドアをアンロックする

参考 本機能は、ドアロックコード(別売)やドアロック対応のアダプター(別売)が配線済みのドアロック適合車種で使用できます。

参考 一部のプッシュスタート車は乗り逃げ防止のため、アイドリング中にドアを開けるとエンジンが停止します。

参考 純正キーレスエントリーにドアの自動再ロック機能が付いている車種では、本製品のリモコンでアンロックした場合に、自動再ロック機能が働かないことがあります。

1 [DOOR]ボタンを押します。

【「1 KEY」モードの場合】(22ページ参照)
[DOOR]ボタンを2秒以上押し続けると、ドアロックの操作となります。(14ページ参照)

2 液晶ディスプレイに「OPEN」が表示されている間に、[SET]ボタンを押します。

【「1 KEY」モードの場合】(22ページ参照)
［この手順は不要です。

3 液晶の表示を確認します。

本体との通信が成功してドアがアンロックされると、右のように表示されます。

「OK」が表示されます。

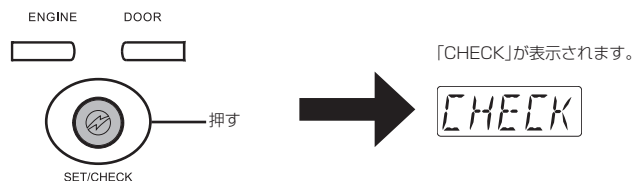
OK

メモ　リモコンにエラーが表示されるときは、39ページ「エラー表示一覧」を参照して対処してください。

Err-99

車の状態を確認する

車がアイドリング中なのか、エンジンが停止しているのか等を確認できます。

1 [SET]ボタンを押します。

「CHECK」が表示されます。

【「1 KEY」モードの場合】(22ページ参照)
[SET]ボタンを2秒以上押し続けると、リモコンのボタンをロックする機能となります。(23ページ参照)

2 液晶ディスプレイに「CHECK」が表示されている間に、もう一度[SET]ボタンを押します。

【「1 KEY」モードの場合】(22ページ参照)
この手順は不要です。

3 液晶の表示を確認します。

本体との通信が成功すると、次のように表示されます。

■本製品によるアイドリング中のとき

アイドリングの残り時間、車内温度、バッテリー電圧が表示されます。

■エンジンが停止しているとき

「STOP」と表示された後、車内温度、バッテリー電圧が表示されます。

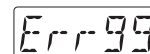
■エンジンが始動動作中のとき

エンジン始動の試行回数が表示された後、車内温度、バッテリー電圧が表示されます。

エンジン始動中(1回目)の場合

メモ 車内温度は付属の温度センサー先端部の温度です。
車両純正の温度計の表示などとは一致しません。

メモ リモコンにエラーが表示されるときは、39ページ「エラー表示一覧」を参照して対処してください。

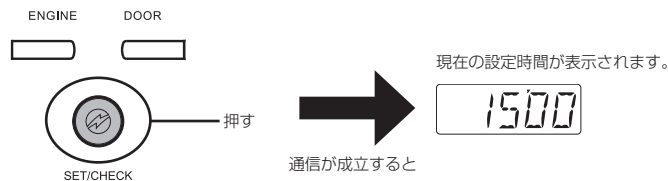
Err99

設定のしかた

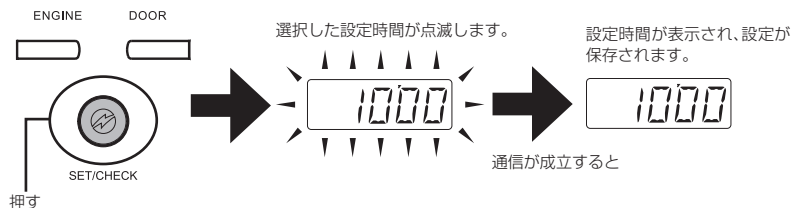
スターターが自動停止するまでの時間

本製品でエンジンをかけてそのまま放置していると、一定時間経過後に自動的にエンジンが停止します。そのエンジン停止までの時間を設定できます。

メモ 環境に配慮し、不必要なアイドリングはおやめください。
メモ 設定を中止するときは、15秒間、何も操作せずにお待ちください。

1 [ENGINE]ボタンと[DOOR]ボタンを同時に2秒以上、押します。

2 [SET]ボタンを押します。

3 [ENGINE]または[DOOR]ボタンを押して時間(分)を設定します。
5/10/15(標準設定)/20/25/30(分)のいずれかを選択できます。

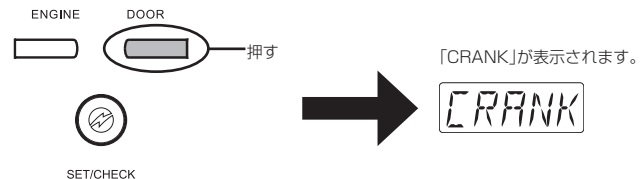
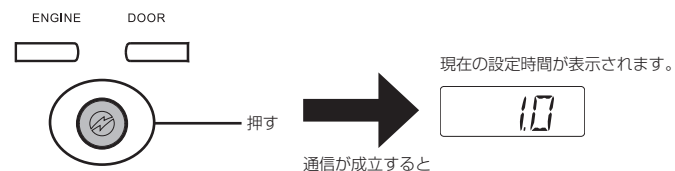
4 [SET]ボタンを押します。
設定が保存されます。

セルモーターの回転時間

スターターでエンジンをかけるときの、セルモーターの回転時間を設定できます。

参考 エンジンがかかるまでの時間よりも回転時間を長く設定すると、エンジンがかかった後もセルモーターが回ってしまい、「カリカリ…」と異音がすることがあります。

メモ スターターからの信号でエンジンがかからなかった場合、最初の始動と合わせて3回まで自動でエンジンをかけ直します。そのとき、セルモーターの回転時間は、0.5秒ずつ長くなります。
メモ 設定を中止するときは、15秒間、何も操作せずにお待ちください。

1 [ENGINE]ボタンと[DOOR]ボタンを同時に2秒以上、押します。

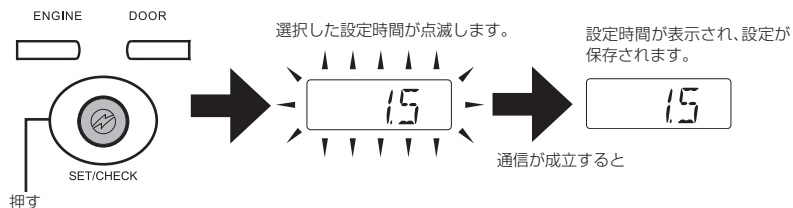
2 [DOOR]ボタンを押します。

3 [SET]ボタンを押します。

次のページへ

4 [ENGINE]または[DOOR]ボタンを押して時間(秒)を選択します。

0.5/1.0(標準設定)/1.5/2.0/3.0(秒)のいずれかを選択できます。

メモ 純正イモビライザー装着車でエンジンがかかりにくい場合は、設定時間を少し長めにしてください。

5 [SET]ボタンを押します。

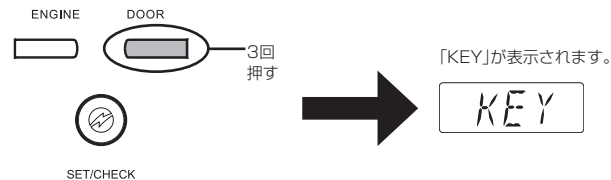
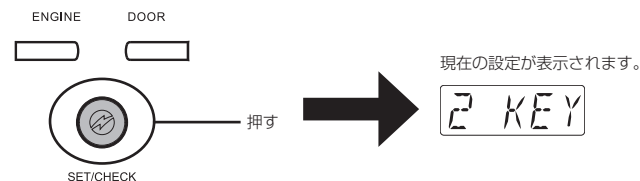
設定が保存されます。

キー操作モードの設定

本製品には、通常の操作手順より少ないキータッチで操作できる「1 KEY」モードがあります。必要に応じて設定を変更してください。

メモ 標準設定は「2 KEY」モードです。

参考 「1 KEY」モードに設定した場合は、ポケットやカバンの中に入れたリモコンのボタンが意図せず押されてしまう誤操作に注意してください。また、誤操作を防ぐためにボタン操作ロック機能を使用してください。(23ページ参照)

1 [ENGINE]ボタンと[DOOR]ボタンを同時に2秒以上、押します。

2 [DOOR]ボタンを3回押して「KEY」を表示させます。

3 [SET]ボタンを押します。

4 [ENGINE]または[DOOR]ボタンを押して設定を切り替えます。

メモ 不意の誤操作を極力低減させたい方には「2 KEY」モードを、少ないキータッチでよりダイレクトに操作をしたい方には「1 KEY」モードをおすすめします。

5 [SET]ボタンを押します。

設定が保存されます。

リモコンのボタンをロックする(ボタン操作ロック機能)

ポケットやカバンにリモコンを入れているときなどに、誤ってボタンが押されて本製品が動作してしまうことを防ぐため、リモコンのボタン操作を無効にできます。

参考 本機能は、キー操作モードを「1 KEY」モードに設定している場合にだけ有効です。(22ページ参照)

1 **[SET] ボタンを2秒以上、押します。**

これでリモコンのボタン操作が無効になりました。

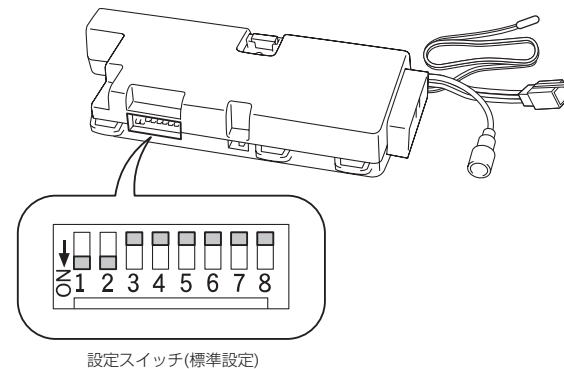
2 **ボタン操作を可能にするときは、もう一度 [SET] ボタンを2秒以上、押します。**

ENGINE
DOOR
2秒以上、
押し続ける
SET/CHECK
「HELLO」が表示されます。
HELLO

これでボタン操作が可能になりました。

取り付け時の設定

本体の設定スイッチを切り替えて、本製品の機能や動作条件などを設定します。

参考 **この設定は取り付け時にだけ行ってください。不用意に設定を変更すると、本製品が正常に動作しなくなることがあります。**

設定スイッチ(標準設定)

スイッチ番号	設定項目	参照ページ
1	パーキングブレーキ検出の設定	25
2	P/N検出、フットブレーキ検出の設定	25
3	IG2制御の設定	29
4	L端子配線時の設定	29
5	(使用しません)	―
6	グロータイムの設定	30
7	OP端子出力の設定	30
8	ID書込	33

パーキングブレーキ検出の設定

パーキングブレーキ(サイドブレーキ)がかかっていないときに、本製品でエンジンが始動できないように設定できます。

メモ 寒冷地などでパーキングブレーキ(サイドブレーキ)をかけずに駐車する場合は、この機能は使用しないでください。(「検出しない」に設定してください。)

メモ パーキングブレーキ検出機能を使用するときは、あらかじめサイドブレーキ検出コードを接続してください。(別紙「取付マニュアル」参照)

●設定内容

スイッチ1の設定	パーキングブレーキ検出
上(OFF)	検出する
下(ON)	検出しない(標準設定)

P/N検出、フットブレーキ検出の設定

安全機能として、ギアがパーキングまたはニュートラルに入っているかを検出する「P/N検出」と、フットブレーキが踏まれていないかを検出する「フットブレーキ検出」のいずれかを選択する必要があります。

メモ フットブレーキ検出機能を使用するときは、あらかじめフットブレーキ検出コードを配線してください。(別紙「取付マニュアル」参照)

メモ 車種によってはP/N検出機能が使用できない場合があります。その場合は、フットブレーキ検出機能を使用してください。

メモ 車両純正装備のストップランプが白熱球の車の場合、LEDストップランプへ交換すると、フットブレーキ検出機能が使用できないことがあります。

参考 本製品を他の車に取り付け直すときは、P/N検出データを消去する必要があります。その場合は、設定スイッチ2を一旦「フットブレーキ検出」にしてP/N検出データを消去してから、設定し直してください。

●設定内容

スイッチ2の設定	フットブレーキ検出・P/N検出
上(OFF)	フットブレーキ検出(*1)
下(ON)	P/N検出(標準設定)(*2)

*1 P/N検出データが消去されます。
*2 P/N検出機能を使用するときは、「P/N検出データの設定」(26ページ)と「P/N検出時のST1/ST2切り替え」(28ページ)の設定も行ってください。

P/N検出データの設定

初めて本製品を取り付けたときや、他の車に取り付け直したときは、P/N検出データ(*)を本体に登録する必要があります。

* P/N検出とは、「ギアがパーキングもしくはニュートラルに入っている」か、「ギアが他のポジションに入っている」かを検出する機能です。

1 車に乗ります。

2 セレクトレバーを「P」にして、イグニッションを「OFF」にします。

3 本製品のリモコンでエンジンをかけます。

エンジンがかかる場合

P/N検出データが設定済みか、フットブレーキ検出に設定済みです。このまま使用してください。

本体から音が出る場合

「ピー・ピー・ピー・ピー、ピー・ピー・ピー・ピー」と鳴ったときは、次ページの手順4に進んでください。
他の音が鳴ったときは、「エラー表示一覧」(39ページ)を参照して対処してください。

次のページへ

4 20秒以内にイグニッションを「ON」(メーターパネルが点灯する状態)にします。

20秒以内に操作できなかったときは、前ページの手順 2 からやり直してください。

操作後、しばらくしてから本体が「ピ・ピ・ピ・ピー、ピ・ピ・ピ・ピー」と鳴ったとき
車種別専用ハーネスの品番と、車種別専用ハーネスの取り付け状態を確認してください。

操作してすぐに本体が「ピー」と鳴ったとき
手順 5 へ進んでください。

5 20秒以内にブレーキを踏みながらセレクトレバーを「D」または「R」にします。

20秒以内に操作できなかったときは、手順 2 からやり直してください。

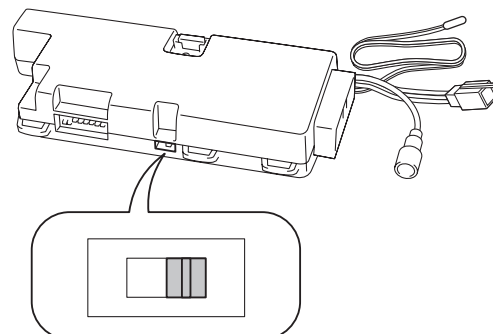
本体が「ピ・ピ・ピ・ピー、ピ・ピ・ピ・ピー」と鳴ったとき
「P/N検出時のST1/ST2切り替え」(28ページ)を参照して、ST1とST2を切り替えてください。その後、もう一度手順 2 からやり直してください。
ST1とST2のどちらでも設定できない場合は、P/N検出に対応できない車両です。フットブレーキ検出コードを配線して、本体の設定スイッチ2をOFF(上側)に切り替えてください。

本体が「ピー」と鳴ったとき
手順 6 へ進んでください。

6 セレクトレバーを「P」に戻して、イグニッションを「OFF」にします。

これでP/N検出データの設定は完了です。

P/N検出時のST1/ST2切り替え

P/N(パーキング/ニュートラル)検出機能を使用する場合に、正しく検出できるように本体の「P/N検出モード切替スイッチ」を設定します。

P/N検出モード切替スイッチ

●設定内容

スイッチの位置	P/N検出モード
右側	ST1(標準設定)
左側	ST2

メモ 「ST1」(標準設定)でP/N検出がうまく行えなかった場合、スイッチを「ST2」へ切り替えて再度P/N検出を行ってください。

メモ 「ST2」でもP/N検出がうまく行えなかった場合は、「フットブレーキ検出」を行ってください。(25ページ「P/N検出、フットブレーキ検出の設定」参照)

IG2制御の設定

次の条件を満たすホンダ車で本製品を使用する場合は、この設定を必ずON(下側)にしてください。

・純正のABS(アンチロック・ブレーキ・システム)を装着している
・本製品でエンジンをかけたときに、メーターパネルのABS警告灯が点灯したままになる

また、店頭の「車種別ハーネス適合表」に「IG2制御をONにする必要があります。」と記載されている車種の場合も、この設定を必ずON(下側)にしてください。

参考 正しく設定しないと、ABS警告灯が点灯したままになったり、リモコン操作で正常にエンジンがかからない場合があります。

●設定内容

スイッチ3の設定	IG2制御
上(OFF)	通常(標準設定)
下(ON)	特殊

L端子配線時の設定

車両特性によって本製品がエンジンの始動を判断できない場合は、L端子検出コードを車両のL端子に配線してこの設定をON(下側)にすることで、正常にエンジン始動判断ができるようになります。

メモ 通常は標準設定(L端子配線しない)のまま使用してください。
メモ この設定は、L端子への配線を行った場合にだけ有効になります。

●設定内容

スイッチ4の設定	L端子配線
上(OFF)	なし(標準設定)
下(ON)	あり

メモ L端子は、エンジンルームのオルタネーターから出ている、次の条件をすべて満たすコードです。

・バッテリーにつながっている太いコード以外
・イグニッションがOFFのときの電圧が0V
・イグニッションをONにしたときの電圧が約+2V以下
・エンジン始動後の電圧が約+12V

グロータイムの設定

リモコンからのスタート信号を受信してからセルが回るまでの時間を設定できます。

メモ 通常は標準設定(8秒)のまま使用してください。

参考 時間を短くすると、特にディーゼル車の場合、寒冷時にエンジンがかからなくなる恐れがあります。

●設定内容

スイッチ6の設定	グロータイム
上(OFF)	8秒(標準設定)
下(ON)	5秒

OP端子出力の設定

本製品に次のアダプターを接続する場合は、この設定をON(下側)にしてください。

OP端子出力の設定　対象アダプター (2010年9月現在)
・TE413(イモビ付車 対応アダプター2)
・TE417(純正セキュリティ対応アダプター1)
・TE420(キー検出制御アダプター)
・TE422(イモビ付車 対応アダプター5)

●設定内容

スイッチ7の設定	OP端子出力
上(OFF)	A(標準設定)
下(ON)	B

リモコンの電池交換

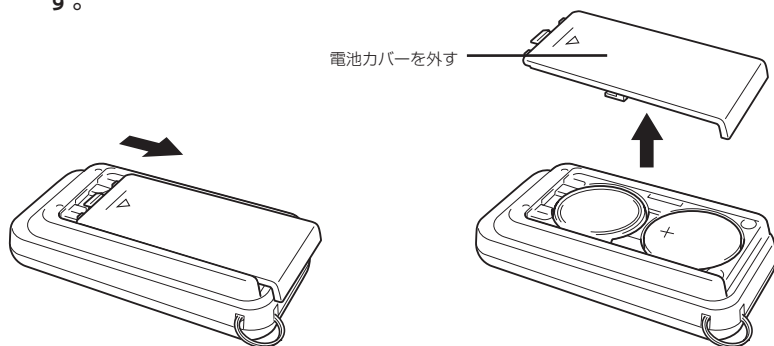
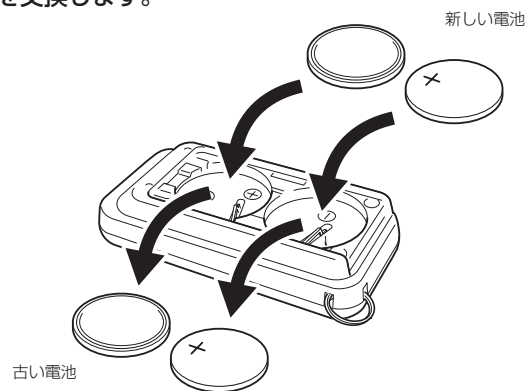
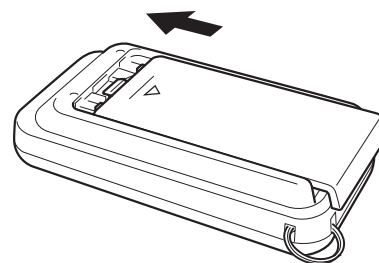
リモコンの送信距離が短くなったり操作できなくなったときや、液晶表示が暗くなってきたときは、リモコンの電池が消耗しています。新しい電池(CR2025×2個)に交換してください。

メモ リモコンを操作したときに、液晶ディスプレイに下図のメッセージが表示されたら、電池の交換時期です。

LoBAT

メモ 電池(新品)の寿命は、1日10回、常温での使用で約1年です。

⚠注意 **必ず新しい電池2個と交換してください。新しい電池と古い電池を同時に使用すると、液漏れなどの原因になります。**

1 電池カバーの「▼」部分を押しながらスライドさせ、電池カバーを外します。

2 電池を交換します。

3 元どおり電池カバーをはめます。

故障かな?と思ったら

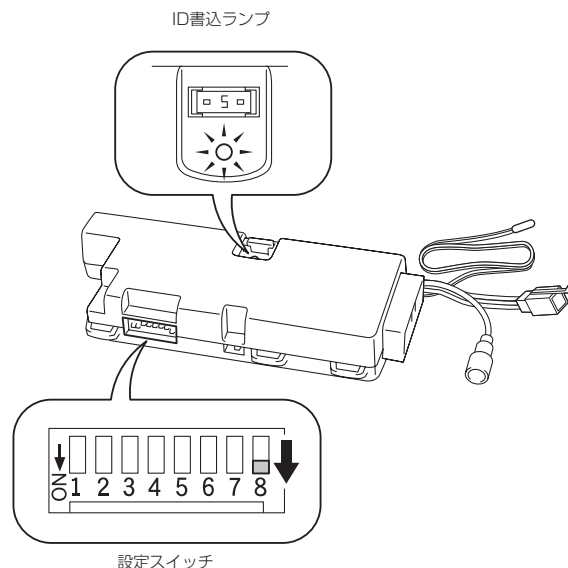
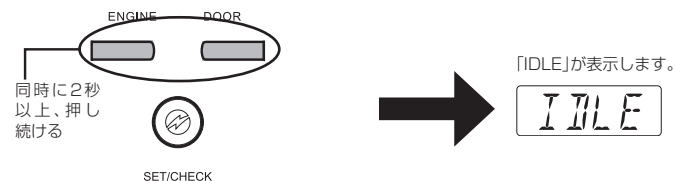
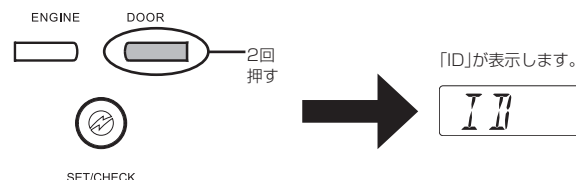
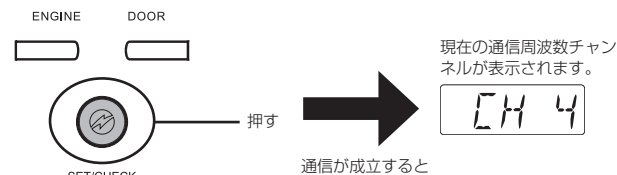
リモコンIDの再登録(混信、妨害電波によって通信が安定しないとき)

スペアリモコンの購入時などは、リモコンのIDを本体に登録する必要があります。また、このID登録手順で通信周波数チャンネルを切り替えることにより、通信が安定する場合があります。
登録方法は、「A:本製品の本体設定スイッチを使う方法」と、「B:車のイグニッションスイッチを使う方法」の2通りあります。いずれかの方法で作業してください。

メモ 作業前に必ずエンジンを止めてください。また、本体の発する音を聞き逃さないため、オーディオ、エアコンなど音の出る装置を止めることをおすすめします。

メモ 作業は2分以内に完了してください。

A:本体設定スイッチを使う方法

1 本体の設定スイッチ8を下側にします。
本体のID書込ランプが点灯して、ID書込モードになります。

2 [ENGINE]ボタンと[DOOR]ボタンを同時に2秒以上、押します。

3 [DOOR]ボタンを2回押して「ID」を表示させます。

4 [SET]ボタンを押します。
現在の通信周波数チャンネル(CH1〜CH6)が表示されます。

5 [ENGINE] または [DOOR] ボタンを押して通信周波数チャンネルを切り替えます。

メモ 通常は設定を変更する必要はありません。

メモ 周囲に同じ周波数帯の電波が飛んでいる場合は、通信周波数チャンネルを変更することで、通信が安定することがあります。

6 [SET]ボタンを押します。
設定が保存され、リモコンから「ピピッ」と音が鳴ります。

7 本体の設定スイッチ8を上側に戻します。
これで設定は完了です。

B:車のイグニッションスイッチを使う方法

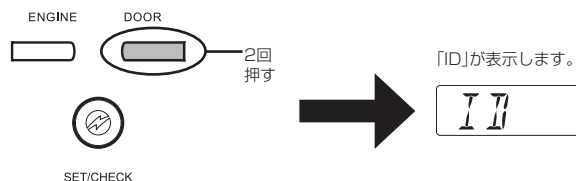
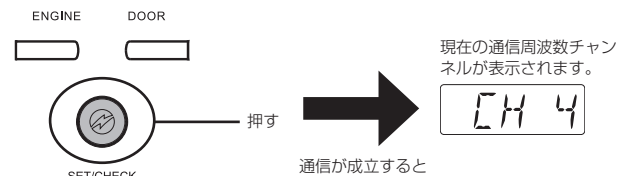
1 **車両のキーやイグニッションスイッチを使ってイグニッションをONにします。**

参考 エンジンはかけないでください。

2 **イグニッションをOFFにします。**

3 **手順1、2をさらに4回(計5回)繰り返します。**
車両のイグニッションをONにするたびに、本体から「ピー」と音がすることを確認してください。イグニッションのON／OFF操作の間隔が早すぎると音が鳴りませんので、5秒程度、時間を空けてください。

4 **本体から「ピ―――」と長い音がしたら、「ENGINE」と「DOOR」を同時に2秒以上、押します。**

5 **[DOOR]ボタンを2回押して「ID」を表示させます。**

6 **[SET]ボタンを押します。**
現在の通信周波数チャンネル(CH1～CH6)が表示されます。

7 **[ENGINE] または [DOOR] ボタンを押して通信周波数チャンネルを切り替えます。**

メモ 通常は設定を変更する必要はありません。
メモ 周囲に同じ周波数帯の電波が飛んでいる場合は、通信周波数チャンネルを変更することで、通信が安定することがあります。

8 **[SET]ボタンを押します。**
設定が保存され、リモコンから「ピピッ」と音が鳴ります。
これで設定は完了です。

リモコンを無くしたとき

リモコンを紛失したときは、別売の補修用スペアリモコン
(品番:TER-W1700(カラー:グロスブラック))をお買い求めください。

メモ 登録できるリモコンは1台だけです。リモコンの増設はできません。

スターターでエンジンがかからないとき

必ず下記の手順に従って確認作業を行ってください。

1 リモコンの電池の状態を確認します。

・リモコンの電池は正しく入っていますか?
・リモコンの電池が消耗していませんか?

メモ リモコンを操作したときに、液晶ディスプレイに下図のように表示されたら電池の交換時期です。新しい電池に交換してください。(31ページ参照)

LoBAT

2 取付車種および取付ハーネス品番などを確認します。

・取付車種が本製品の取付不可車種になっていませんか?(店頭または当社ホームページの車種別ハーネス適合表等で確認してください。)
・車種別専用ハーネスの品番が合っていますか?
(店頭または当社ホームページの車種別ハーネス適合表等で確認してください。)
・アースコード(黒)の接続は正常ですか?ゆるみ等はありませんか?樹脂パーツなどに固定していませんか？

3 車両本来の方法(キーやイグニッションスイッチなど)でエンジンがかかるかどうか確認します。

エンジンがかからない場合

・車種別専用ハーネスが正しく接続されているかどうか確認してください。(イモビライザー装着車の場合はイモビ付車 対応アダプターの接続も確認してください。)

エンジンがかかる場合

・純正イモビライザー装着車の場合は、イモビ付車 対応アダプターの配線、ループアンテナの取り付け位置、ケース内のキーの固定位置などを調整してください。
・本体のヒューズが切れていないかどうか確認してください。
・本体の設定スイッチ3「IG2制御」(29ページ参照)の設定を確認してください。

4 通常待機時の本体のID書込ランプの発光状態を確認します。

本体表側のID書込ランプの発光状態を確認します。

ランプの状態	原因･対処方法
ランプが消えたままになっている	通常の受信待機中です。 手順 5 に進んでください
ずっと点灯し続ける	ID書込モードになっています。 本体の設定スイッチ8がONになっている場合はOFFに切り替えてください。(24ページ、33ページ参照) 本体の設定スイッチ8がOFFになっている場合は車種別専用ハーネスを本体から一旦抜いて数秒経過してから再び差し込んでください。

5 リモコンでエンジンスタートの操作を行い、本体のブザー音を確認します。

本製品にはエンジンの始動ができない原因を自己診断して、本体のブザー音によって知らせる機能があります。

操作方法

リモコンでエンジンスタートの操作をしてください。(11ページ参照)
その時、本体から鳴るブザーの音(エラー表示)を確認してください。
エラー表示一覧は、次ページを参照してください。

参考 車両のすぐ近くで操作しても、通信ができない(操作後10秒程度でリモコンの液晶ディスプレイに「Err99」と表示され、「ブブブブ」と音がする)場合は、33ページ「リモコンIDの再登録」の操作を行ってください。それでも改善しないときは、本体から車種別専用ハーネスを外して15秒程度待ってからもう一度接続し、再度33ページ「リモコンIDの再登録」の操作を行ってください。

エラー表示一覧

● =短いブザー音とLEDの点灯　▬ =長いブザー音とLEDの点灯

リモコンの表示	ブザー音とLEDの状態	原因･対処方法
Err01	●●●▬　●●●▬	**●P/N検出エラー1** シフトポジションが「P」または「N」以外の位置になっている可能性があります。エンジンをかけることができる位置にシフトポジションを切替えてください。 シフトポジションが「P」または「N」の位置であるにも関わらずこのエラーが出る場合は、本体の設定スイッチ2(フット/PN切替)をOFFにし、5秒程度待ってから再びONに切り替え、26ページを参照の上、再びP/N検出データの設定を行ってください。
Err02	●●▬●　●●▬●	**●フットブレーキ検出エラー** フットブレーキ検出コード(車種別専用ハーネスの細い紫コード)の配線が誤っている可能性があります。 フットブレーキ検出を使用せずにP/N検出を使用する場合は、必ず本体の設定スイッチ2(フット/PN切替)を「P/N」(ON側)に切り替えてください。 **車両のストップランプをLEDへ交換した場合** 車両純正装備のストップランプが白熱球の車の場合、LEDストップランプへ交換すると、フットブレーキ検出機能が使用できないことがあります。
Err03	●●▬▬　●●▬▬	**●パーキングブレーキ検出エラー** パーキングブレーキ検出を使用しない場合は、本体の設定スイッチ1(パーキングブレーキ検出)が「検出しない」(ON側)になっているかどうか確認してください。 パーキングブレーキ検出を使用する場合は、車種別専用ハーネスに付属しているサイドブレーキ検出コードの配線が誤っている可能性があります。サイドブレーキ検出コードの配線を確認してください。
Err04	●▬●●　●▬●●	**●L端子エラー** L端子検出コードの配線が誤っている可能性があります。配線と設定を確認してください。(L端子配線については29ページ参照)
Err05	●▬●▬　●▬●▬	**●バッテリー容量エラー** 車両バッテリーの電圧が低く、セルモーターを回せません。車両のバッテリーを充電してください。(バッテリー上がりを未然に防ぐための機能です)

リモコンの表示	ブザー音とLEDの状態	原因･対処方法
Err06	●▬▬●　●▬▬●	**●始動判断エラー1(始動判断できない)** **セルは回るが、エンジンがスタートしない場合** セルモーターの回転時間が短いことが考えられます。20ページを参照の上、セルモーターの回転時間を長めに切り替えてください。また、イモビ付車 対応アダプターを使用している場合は、アダプターが正常に取り付けられているか確認してください。 **エンジン始動後すぐに止まってしまう場合** 車両特性により、エンジンの始動判断が行えていません。始動判断が正常に行われない場合は、車両オルタネーターのL端子に車種別専用ハーネス付属のL端子検出コード(茶色の細いコード)を接続した上で、L端子配線時の設定(29ページ参照)を行ってください。
Err07	なし	**●イグニッションエラー** 車両のイグニッションがONになっています。イグニッションをOFFにしてください。
Err08	▬●●●　▬●●●	**●スリープモード** 14日以上エンジンをスタートさせていない場合は、スリープモードに入るためエンジンスタートができません。車両本来の方法で一度エンジンをかけてスリープモードを解除してください。
Err15	▬▬▬▬ ▬▬▬▬	**●P/N検出エラー2** P/N検出が設定されていません。26ページを参照の上、P/N検出の設定を行ってください。 P/N検出が正常に行えない車両の場合は、本体の設定スイッチ2(フット/PN切替)を「フット」(OFF側)に切り替えて、フットブレーキ検出コード(車種別専用ハーネスの細い紫コード)を配線してください。(→別紙「取付マニュアル」参照)
Err90	なし	**●送信エラー** 何らかの原因により、リモコンから電波を送信できませんでした。(12ページ参照) 改善しない場合は33ページを参照して、通信周波数チャンネルを変更してみてください。
Err99	なし	**●通信エラー** 何らかの原因により、リモコンと本体間の通信が成立しませんでした。(12ページ参照)
	エンジンが始動しないのに本体から「ピッ､ピッ､ピッ......」という音が続く場合	**●始動判断エラー2(誤った始動判断を行う)** 車両特性により、誤った始動判断を行っています。本体の設定スイッチ3(IG2制御)の設定を確認してください。それでも始動判断が正常に行われない場合は、車両オルタネーターのL端子に車種別専用ハーネス付属のL端子検出コード(茶色の細いコード)を接続した上で、L端子配線時の設定(29ページ参照)を行ってください。

上記以外のエラーコードが表示される場合は、当社サービスセンターにお問い合わせください。

その他のトラブル

	症状	解説	参照ページ
リモコンについて	リモコンが操作できない	リモコンの電池が消耗していませんか?新しい電池に交換してから操作してください。	31
	通信完了まで時間がかかる	本製品は、リモコン操作(電波送信)を行った後に車両側メインユニットからのアンサーバック信号が受信できなかった場合、自動的に再送信を試みます。この場合、通信完了までの時間が通常より長くかかりますが異常ではありません。	—
	リモコンでエンジンを止めることができない	車両本来の方法でエンジンをかけている時は、リモコンでのエンジン停止は行えません。	—
	エンジンスターターの操作時、車両側はエンジンがかかるにも関わらず、リモコンへのアンサーバックが行われない。	本製品のリモコンは、エンジンスターターの操作から約30秒間のみ車両からのアンサーバック信号を受け付けています。この間に何らかの原因によりアンサーバック信号を受信できなかった場合は、そのまま液晶表示を終了します。	12
	車両側は正常に動作しているにも関わらずリモコンに「Err99」と表示される。	リモコンから車両側への通信は正常に行われたが、車両側からリモコンへのアンサーバック信号が何らかの原因により受信できなかった事が考えられます。	12
	リモコン操作時、液晶ディスプレイが表示されるまでに時間がかかる。	液晶の特性上、低温時の表示には多少時間がかかる場合があります。リモコン内部の温度が上昇すれば表示は元に戻ります。	—
	バックライトや液晶表示が暗くなったり不安定な状態になる。	リモコンから電波を送信する時に電池電圧が低下してバックライトがちらつく場合がありますが、異常ではありません。	—
		リモコンの電池が消耗していませんか？新しい電池に交換してください。 また、低温になる場所にリモコンを置いておくと、一時的に電池電圧が低下してリモコンの表示が薄くなる場合がありますが、常温になれば元に戻ります。	31

	症状	解説	参照ページ
エンジンスターター機能について	エンジンスターターが作動しない	本体のヒューズが切れていませんか?配線を再確認してから新しいヒューズ(別売)に交換してください。	—
		ID登録が正しく行われていない可能性があります。再度リモコンIDの登録を行ってください。	33
		P/N検出データが消失していませんか?(リモコンに「Err15」と表示されていませんか？)再度データを書き込んでください。	26
		その他の原因の場合は「スターターでエンジンがかからないとき」を参照の上、確認作業を行ってください。	37
	エンジン始動時および停止時に、車両のストップランプが点灯する	一部のプッシュスタート車は車両の仕様上、エンジンをかけるときにフットブレーキを踏む必要があるため、エンジンスターターでエンジンをかけるときにはフットブレーキ(テールランプ)部分の配線を電気的に制御しています。 このとき、車両のストップランプが点灯しますが異常ではありません。	—
	エンジンスターターによるアイドリング中、純正キーレスエントリーが作動しない	ほとんどの純正キーレスエントリー装着車は、車両の仕様上エンジン始動中に純正キーレスエントリーが作動しないようになっています。このような車両の場合、エンジンスターター機能によるアイドリング中は、本製品のドアアンロック機能を使用するか、キーを使用してドアをアンロックする必要があります。	—

	症状	解説	参照ページ
その他の症状	通信距離が短い	リモコンの電池が消耗していませんか?新しい電池に交換してください。	31
		リモコンと車の間に電波を遮断する障害物が多いことが考えられます。特に金属物質は電波を通しにくく、通信距離を著しく縮めますので使用の際はご注意ください。	—
		本体のアンテナ部分先端が車両の金属部分(車両コンピューターユニットやハーネス類を含む)に近い場合は、通信距離が短くなります。金属部分から5cm以上離れるように取付位置を変更してください。	—
	ドアロック機能が使用できない	ドアロック機能はドアロック適合車種のみ使用可能です。 また、ドアロック機能を使用するには別途ドアロック配線が必要となりますのでご注意ください。	—
		車両本来の方法でエンジンをかけている時は、本製品のドアロック機能は使用できません。	—
		ドアが開いているとドアロックモーターが作動しない車種がありますので、必ず全てのドアを閉めてからドアロックの操作を行ってください。	14
	スマートエントリー機能が動作しない	一部のプッシュスタート車で、本製品によるアイドリングをリモコンで止めた後にスマートエントリーが動作しない場合は、ドア部のロックスイッチを押して一旦ドアロックの操作を行い、3秒以上待ってからドアハンドルを引いてください。	—
	キーによるエンジン始動ができない	車種別専用ハーネスがゆるんでいたり、本体が接続されていない場合、キーによるエンジン始動ができなくなります。接続が確実に行われているか確認してください。	—
	ドアを開けるとエンジンが停止する	一部のプッシュスタート車の場合は乗り逃げを防ぐため、エンジンスターターによるアイドリング中にドアを開けるとエンジンが停止します。	—
	ドアをアンロックすると車両の純正ホーンが鳴る	純正のセキュリティアラームなどが装備されている車両の場合、純正キーレスエントリーなどでドアをロックした後、本製品でドアアンロックを行うと、純正セキュリティアラームが鳴る場合がありますが故障ではありません。 このような車両の場合、ロック操作とアンロック操作を同一のリモコンで行う必要があります。	—
	その他、動作が不安定な場合	車種別専用ハーネスのゆるみがないか、また、アースコードが確実なアースポイントに接続されているか確認してください。	—

仕様

技術基準	特定小電力無線局テレコントロール用無線設備
使用周波数	429MHz帯(6チャンネル任意選択式)
通信方式	単信方式
送信出力	10mW
送信時間	40秒以内
送信休止時間	2秒以上

■リモコン

ユニット名	RM-B
外形寸法	61.5×31.0×14.7(mm)　(突起部除く)
重量	約24g
使用電池	CR2025×2ケ
電池寿命(新品時)	約1年(常温で1日10回の送信を行った場合)
作動温度範囲	0℃～+60℃

■本体

ユニット名	MB-B
外形寸法	66×139×27(mm) (突起部除く)
重量	約180g
電源電圧	DC12V
消費電流(待機時)	約13mA(スリープモード付)
作動温度範囲	−20℃～+70℃